

7	おかしいな？と思ったら
	表示 原因・対処のしかた
1	ErD 数字は0～4を表示 本体が故障している可能性がある。 ▶オムロンお客様サービスセンターまでお問い合わせください。 ※本体水洗いできるのは感温部の先端から約5cmまでです。
2	AH- 体温計が約40℃を超えるところに保管してあった。 ▶10～40℃の部屋に最低1分間放置してから、検温してください。
3	AL- 体温計が約10℃未満のところに保管してあった。 ▶10～40℃の部屋に最低1分間放置してから、検温してください。
4	Errtc ブザーが「ピピピ…」と鳴る 予測検温中に、わきにはさみながら体温計を動かしたり、体を動かしたりしたために、温度上昇の分析・演算に障害が生じた。 ▶そのままはさみ続けて実測検温をおこなうか、一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
5	tc ブザーが「ピー」と鳴る 体温計をわきに正しくはさめていない。または、わきからずれていたために、正しく検温できていない。 ▶一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
6	tc ブザーが「ピーピー…」と鳴る 感温部の温度が32℃未満になっている。 ▶エラーではありません。そのまま検温してください。
7	Ltc 感温部の温度が42℃を超えている。 ▶感温部をよく絞ったぬれタオルなどで冷やしてから検温してください。
8	Htc 外気温（周囲環境温度）が32℃を超えると感温部が温まり、実際の温度が表示される。 ▶感温部をよく絞ったぬれタオルなどで冷やしてから検温してください。
9	32.5℃ 数字は32.0～42.0を表示 ※体温を測っていないとき

こんなとき	原因・対処のしかた
電源ボタンを押しても表示部に何も表示されない	電池が正しく入っていない。 ▶電池の汚れや、⊕⊖の向きを確認して、電池を入れ直してください。（※図6.電池の交換のしかた） - 電池残量がなくなっている。 - 表示部に電池交換マーク（)が表示された後、何も表示されない。 - 新しい電池（CR1220）1個と交換してください。（※図6.電池の交換のしかた）
健康時の体温がこれまでより高い	実測式の体温計で3～5分測った場合と比べていませんか？実測式で10分より短い時間で測ると、実際の体温より低い値が出る場合があります。また、正確に検温した日本人の平均的な体温（健康時）は「36.89℃±0.342℃」です。たとえば37.0℃でも平均的な平熱の範囲で、必ずしも発熱とは限りません。 ※【出典】 東京大学医学部 田坂内科：日新医学 44（12）：633-638, 1957より
検温値がばらつく	体温計の感温部をあてる位置が、検温するたびに変わっている。 ▶体温計の正しいあてかたを確認してください。（※図4.正しく測るために）
検温値が通常より高い	運動や入浴、飲食の直後に検温した。 ▶30分以上時間をあけてから検温してください。 または 長時間布団の中にいたりして、熱がこもっている。 ▶こもった熱を冷ましてから検温してください。 起床後すぐに動き出し、直後に検温した。 ▶起床後、動く前に測るか、安静にしてから30分以上あけて検温してください。
検温値が通常より低い	体温計の感温部が、衣服に触れている。 ▶衣服に触れないようにして、測り直してください。 または 体温計が、正しい位置にあたっていない。 ▶体温計の感温部をわきの中心にあて、下から少し押し上げるようにはさんでください。（※図4.正しく測るために）
検温値として「H」（32℃未満）が表示される	連続して検温している。 ▶一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。 わきの下が汗ばんでいる。 ▶わきから汗をきれいに拭き取ってから検温してください。

8 保管とお手入れ

保管時のお願い

- 体温計は、収納ケースに入れて保管してください。
- 下記のようなところは保管しないでください。故障の原因になります。
- 水のかかるところ。
 - 高温多湿のところ、直射日光があたるところ、暖房器具のそば、ほこりの多いところ、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。
 - 振動、衝撃のあるところ。
 - 化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。

お手入れ時のお願い

- 体温計（特に感温部）は、いつも清潔にお手入れしてください。
- 消毒する場合は、消毒用アルコール綿で2～3回拭き取ってください。
 - アルコールを使って汚れを拭き取る場合、表示部にかからないようにしてください。
 - 本体の汚れは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。
 - 汚れがひどいときは、水または中性洗剤をしみ込ませた布をかたく絞って拭き取った後、やわらかい布でから拭きしてください。
 - 水洗いは感温部の先端から約5cmに留めてください。
水洗い後は乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってから、収納ケースに入れて保管してください。

- 下記の内容を必ずお守りください。お守りいただけないと、故障の原因になります。
 - 汚れを落とすときは、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。
 - 本体は、防水ではありません。本体内部に、水などが入らないように注意してください。
※本体水洗いできるのは感温部の先端から約5cmまでです。
 - 体温計の感温部を、アルコールに浸したり、熱湯（50℃を超える湯）で消毒しないでください。
 - 超音波洗浄をしないでください。
 - 水気が付いたままでケース内に収納しないでください。必ず、乾いた布で拭き取ってください。
- 収納ケースは水洗いが可能です。水洗い後はよく水を切り、収納ケースの水気がなくなったことを確認してから本体を収納してください。

9 サポート情報

- 本製品に役立つウェブサイトをご紹介します。

お問い合わせの前に

■製品のよくあるご質問



https://www.healthcare.omron.co.jp/faq/

- お問い合わせの前に「7. おかしいな？と思ったら」もあわせてご確認ください。

オムロンお客様サービスセンター

■「オムロンヘルスケア お客様サポート」ウェブサイト



https://www.healthcare.omron.co.jp/support/

あるいは検索サイトで	
オムロンヘルスケア サポート	と検索する

10 仕様

販 売 名	電子体温計 MC-6740シリーズ	測定精度	±0.1℃（標準室温23℃にて、 恒温水槽で実測検温した場合）
商 品 型 式 名	MC-6740 / MC-6742	測温範囲	32.0～42.0℃
医療機器 認証番号	230AGBZX00059000	使用環境条件	+10～+40℃/30～85％RH
類 別	機械器具 16 体温計	保管環境条件	－20～+60℃/10～95％RH
一 般 的 名 称	電子体温計	本体質量	約14 g（電池含む）
医療機器 分 類	管理医療機器	耐用期間	5 年
電源電圧	DC 3 V（リチウム電池 CR1220×1 個）	外形寸法	幅20.4×長さ138×厚さ12.5mm
電池寿命	約 12,000 回（予測検温） 約 2,000 回（実測検温）	付 属 品	- お試用電池（リチウム電池 CR1220×1 個、内蔵） - 収納ケース - 取扱説明書（品質保証書・医療機器添付文書・EMC 技術資料付き） - コーションシート
感 温 部	サーミスタ		
電撃保護	内部電源機器 （人）＝BF 形装着部（感温部・プローブ）	製造販売元	オムロンヘルスケア株式会社 電話：0120-30-6606 （オムロンお客様サービスセンター）
測定方式	予測・実測（ピークホールド方式）		
体温表示	3桁＋℃表示、0.1℃毎		

EMC 技術資料

本製品は、医用電気機器の安全使用のために要求されている EMC（電磁両立性）規格、IEC 60601-1-2：2014 に適合しています。

お使いいただく際は、本製品に付属の医療機器添付文書、取扱説明書をよく読んでお使いください。

IEC 60601-1-2：2014（5.2.1.1 項）において、機器が安全に機能するための EMC 環境に関する詳細な情報を使用者に提供することが求められているため、EMC にかかわる技術的な説明を以下に記載します。（詳細は、IEC60601-1-2：2014 をご参照ください。）

IEC 60601-1-2 に代表される EMC 規格は、医用電気機器を安全に使用するため、機器から発生するノイズが他の機器に影響を及ぼしたり、他の機器（携帯電話等）が発する電磁波から受ける影響を、一定のレベル以下に抑えるよう規程した規格です。

EMC（電磁両立性）とは

- EMC（電磁両立性）とは、次の二つの事項を満たす能力のことです。
- 周辺他の電子機器に、許容できない障害を与えるようなノイズを出さない。（エミッション）
 - 周辺の他の電子機器から出されるノイズ等、使用される場所の電磁環境に耐え、機器の機能を正常に発揮できる。（イミュニティ）

EMC（電磁両立性）にかかわる技術的な説明

医用電気機器は、EMC に関して特別な注意を必要とし、次に記載する EMC の情報に従って使用する必要があります。

- 注 意
- 本機器は電磁両立性（EMC）に関して、特別な注意が必要です。本書に記載された EMC 情報に基づいて使用してください。
 - 携帯及び移動無線周波（RF）通信機器により本機器は影響を受けることがあります。
 - 本機器は、他の機器に密着させたり、重ねた状態で使用しないでください。

表 1－エミッション適用規格および適合性		
エミッション試験項目	適用規格	適合性
放射系 RF エミッション	CISPR 11	グループ 1、クラス B

表 2－イミュニティ試験レベル		
イミュニティ試験項目	適用規格	イミュニティ試験レベル
静電気放電	IEC 61000-4-2	± 8 kV 接触 ± 2 kV、± 4 kV、± 8 kV、± 15 kV 気中 外装ポート用
放射 RF 電磁界	IEC 61000-4-3	10 V/m 80 MHz～2.7 GHz 1 kHz で 80 % AM 外装ポート用
RF ワイヤレス通信機器からの近接電磁界	IEC 61000-4-3	表 3 参照
定格電力周波数磁界	IEC 61000-4-8	30 A/m 50 Hz および 60 Hz 外装ポート用

表 3－RF 無線通信機器に対する外装ポートイミュニティ試験仕様						
試験周波数（MHz）	帯域（MHz）	サービス	変調	最大電力（W）	距離（m）	イミュニティ試験レベル（V/m）
385	380～390	TETRA 400	パルス変調 18 Hz	1.8	0.3	27
450	430～470	GMRS 460、FRS 460	FM ± 5 kHz 偏差 1 kHz 正弦	2	0.3	28
710	704～787	LTE 帯域 13、17	パルス変調 217 Hz	0.2	0.3	9
745						
780						
810	800～960	GSM 800/900、TETRA 800、iDEN 820、CDMA 850、LTE 帯域 5	パルス変調 18 Hz	2	0.3	28
870						
930						
1720	1700～1990	GSM 1800；CDMA 1900；GSM 1900；DECT；LTE 帯域 1、3、4、25；UMTS	パルス変調 217 Hz	2	0.3	28
1845						
1970	2400～2570	Bluetooth、WLAN、802.11 b/g/n、RFID 2450、LTE 帯域 7	パルス変調 217 Hz	2	0.3	28
2450						
5240						
5500	5100～5800	WLAN 802.11 a/n	パルス変調 217 Hz	0.2	0.3	9
5785						

2018年6月（第1版）

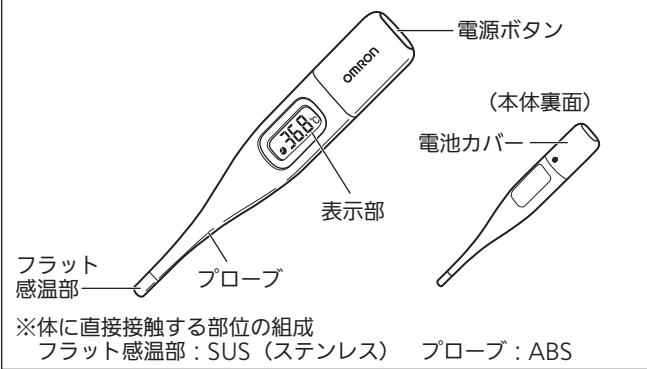
機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計 14032010

電子体温計 MC-6740シリーズ

【禁忌・禁止】 - 検温結果の自己診断、治療は危険ですので医師の指導に従ってください。 【自己診断は、病気が悪化する原因になります。】 - 人の検温以外に使用しないでください。 【動物などを無理に測ろうとすると、暴れてけがをする原因になります。】 - 本製品はわき用の体温計です。わき以外（耳や口中など）で検温しないでください。 【正しい検温ができません。耳などを傷つける原因になります。】 - 乳幼児の手の届かないところに保管してください。 - また、お子様だけのご使用はさけてください。 【自分で無理に測ろうとしてけがをする原因になります。】 - 電池やねじ、電池カバーは乳幼児の手の届かないところに置いてください。 【乳幼児が電池や電池カバーを飲み込む恐れがあります。】 - 電池を加熱したり、火の中に入れたりしないでください。 【破裂などにより、けがの原因になります。】

【形状・構造及び原理等】

1.主要部の形状と名称



2.構成付属品

- リチウム電池 CR1220（お試用）
- 収納ケース
- 取扱説明書

- 3.本体寸法及び重量
- 外形寸法：幅20.4×長さ138×厚さ12.5mm
 - 本体質量：約14 g（電池含む）

- 4.電気的定格
- 電源電圧：DC 3V（リチウム電池 CR1220×1個）
 - 電撃保護：内部電源機器 BF形装着部
 - 消費電力：0.01 W

- 5.作動・動作原理
- 本製品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約30秒後に予測値を表示し、その後、約3分までは予測値を、それ以降は、実測値の最高温度を0.1℃単位で表示する電子体温計である。
- 検温中は、検温開始から約30秒後に予測検温が終了した事を知らせるブザーが鳴る。検温をそのまま続けると、予測検温開始後から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

- 6.性能及び安全性に関する規格等
- (1) 最高温度保持機能：実測して定常状態に達した後の最高の温度値を保持し、一定時間又はリセットするまで表示する

- (2) デジタル表示：実測した体温をデジタル表示する
- (3) 最大許容誤差：一般用 ±0.1℃（32.0～42.0℃）
※標準室温23℃にて恒温水槽で実測検温した場合

- (4) 電源電圧：試験前後の温度表示の差：一般用 ±0.2℃以内
- (5) 防 浸：試験1回目と2回目及び1回目と3回目の温度表示値の差：一般用 0.1℃以下

- (6) 測温範囲：一般用 32.0～42.0℃
- (7) 最小表示単位：一般用 0.1℃
- (8) 測温範囲外告知：32.0℃未満のとき「L」を表示、42.0℃を超えるとき「H」を表示

- (9) 感 温 部：サーミスタ
- (10) 測定方式：予測・実測（ピークホールド方式）
- (11) 体温表示：デジタル表示3桁＋℃表示、0.1℃毎
- (12) 使用環境条件：+10～+40℃/30～85％RH

医療機器認証番号：230AGBZX00059000

- 【使用目的又は効果】
- 感温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測り、最高温度を保持しデジタル表示すること。

- 【使用方法等】
- 電源ボタンを押して電源を入れます。
 - 表示部が「検温準備完了表示」になっていることを確認します。
 - 感温部をわきに挿入し、密着させます。
 - 予測検温を終了するまで、本体を保持します。
 - 予測検温終了のブザー音で、予測検温結果を確認します。
 - 予測検温のみの場合は、電源ボタンを押して電源を切ります。実測検温の場合はそのまま検温を続けます。
 - 予測検温開始から約10分で検温が終了しブザー音が鳴ります。
 - 実測検温結果を確認し、電源ボタンを押して電源を切ります。
- ・詳細については取扱説明書をよくお読みください。

- 【使用上の注意】
- 指定の電池を使ってください。
 - 電池の⊕⊖極を正しく入れてください。
 - 周囲温度が10～40℃の範囲で使用してください。
 - 連続して検温しないでください。一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
 - 強い静電気や電磁波のある場所で使用しないでください。
 - 本体を収納ケースに入れる際は、本体の向きが正しいことを確認してください。
 - アルコールを使って汚れを拭き取る場合、表示部にかからないようにしてください。汚れを落とすときは、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。
 - 検温中、感温部を検温する部位に密着させるように固定し、空隙はつくらないようにしてください。また、大幅に動かさないでください。
 - 電池の電圧が低下すると電池交換マークが表示されますので電池を取り替えてください。
 - 運動や入浴後は、30分以上あけてから検温してください。
 - 飲食後は、30分以上あけてから検温してください。
 - 起床直後の行動開始時期は、比較的激しく体温が上昇しますので、30分以上あけてから検温してください。
 - わきの下が汗ばんでいるときは、わきの下を乾いた布で数回拭いてから検温してください。
 - 感温部およびプローブは防浸ですが、それ以外（表示部など）は防浸ではありません。本体を水につけないでください。
 - 感温部を強く引っ張ったり、曲げたりしないでください。
 - 本体や収納ケースに強い衝撃を与えたり、落としたり、踏んだりしないでください。
 - 分解や修理、改造をしないでください。

- 【保管方法及び有効期間等】
- 1.保管方法

- (1) 次のようなところに保管しないでください。
- 水のかかるところ。
 - 高温・多湿、直射日光、ほこり、暖房器具のそば、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。
 - 振動、重圧、衝撃（運搬時を含む）のあるところ。
 - 化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。
- (2) 保管環境条件：－20～+60℃/10～95％RH

- 2.耐用期間
- 標準的な使用期間：5年〔自己認証（当社データ）による〕

- 【保守・点検に係る事項】
- (1) 故障した場合は勝手に修理、分解せず、お客様サービスセンターにご連絡ください。

- (2) 勝手に改造しないでください。
- (3) 本製品に水や化学薬品をかけないでください。
- (4) 本体の汚れは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。
- (5) 汚れがひどいときは、水または中性洗剤をしみ込ませた布をかたく絞って拭き取った後、やわらかい布でから拭きしてください。
- (6) 消毒する場合は、消毒用アルコール綿で2～3回拭き取ってください。

- 【製造販売業者及び製造業者等の氏名又は名称等】
- 製造販売元：オムロンヘルスケア株式会社
電話：0120-30-6606
（オムロン お客様サービスセンター）

取扱説明書を必ずご参照下さい。